

平成 22 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2011 年 11 月 3 日
氏名： 古山 裕基	実施国：タイ	協力活動
活動名称	東北タイ農村部における虚血性疾患予防のためのコミュニティーをベースにした行動変容プログラムのリーダー養成と、住民への行動変容プログラムの実施	
(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点がありましたか？		
<p>実施国での選挙、実施者の健康上の理由によりプログラムの実施が大幅に遅れた。さらにプログラムを実施してゆく上でさまざまな問題を改善しながら、内容の変更を行った。しかし結果としてはこの変更がプログラムをよい方向に向かわせることになった。高齢者の問題が多く、介護などの技術が大きな問題点だった。予防に重点を置きつつ、現実の問題に取り組みも行うように方向転換していった。</p> <p>支援金 2 4 万円でできるだけプログラムを行おうとしたが、参加者の協力でできるだけ抑えることができた。</p>		
(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）		
<p>良かった点、</p> <p>4 村からなるさまざまな年齢層の 30 人に参加してもらえた。それ以外に子どもたちが参加してくれたのが良かった。最後の講習会では彼らが何をまなび、そしてどのように実践してゆくかを寸劇、歌などで発表してもらえた。</p> <p>4 つの村を何回も通い、かれらの求めていることを把握し、講習会に活かせるようにした。</p> <p>30 人の 4 村がお互いに教え合うことができた。ネットワークができたのが良かった。</p> <p>反省点</p> <p>4 村 30 人は多すぎたかもしれない。</p> <p>高齢者への問題については知識が足りず、日本の様々な資料を読む必要があった。日本のさまざまなとりくみをもう少し紹介できればと思う。</p>		
(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？ または実施事業に対する一般の反響は？		
<p>医療従事者は村人にとっては時として権威的に感じられるときがあり、本音が聞けないこともある。しかし外国人のような良い意味で一時的な関係しか持たない者に対しては、本音をしゃべることもある。朝から晩まで彼らと付き合い、タイ人の医療関係者がいなくなってやっと、いろいろな話が聞けることもあった。全くのよそ者でもなく、身内のものでもない立場で接すると意外とよく見える。村人や医療関係者も新鮮な気分で取り組んでいるように思える。</p>		
(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）		
<p>虚血性心疾患の予防のために始まった同プログラムだが、予防と共に現に疾患にかかっている高齢者へのケア、つまり介護が必要になってきた。また予防、介護を行おうとすれば、病の原因だけに目を向けるのではなく、その背景にある社会、経済面にも目を向けなければならない。例えば、食生活の改善は心疾患にたいする予防や介護において重要だが、たとえば無農薬野菜を自家栽培し、自分で食べるだ</p>		

けでなく、余剰物を販売したりすることも重要になる。また高齢者や成人になってからより子どものときから健康に対する知識を持つことも重要である。今回のプログラムはこのような包括的なもので、参加者 30 人にとっては新鮮なものだったように思え、それぞれのコミュニティで実践してゆくうえで、あたらしい反応が村人からあると聞いている。